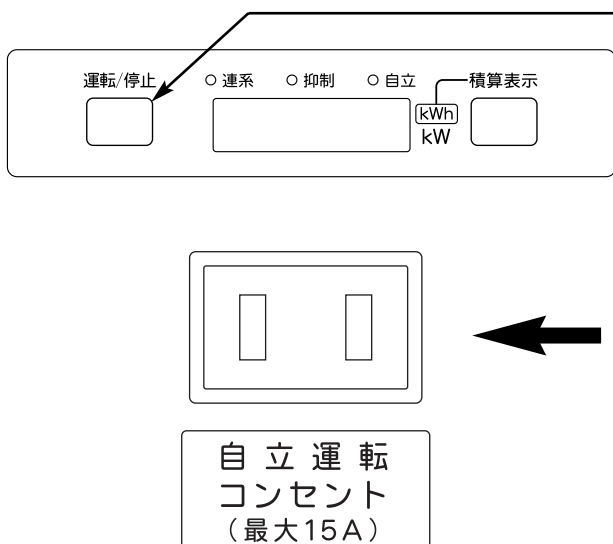


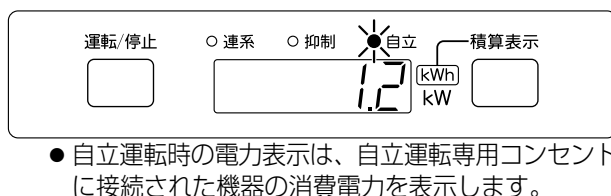
# 停電時の連系運転と自立運転の切り替え

## 連系運転から自立運転にするには

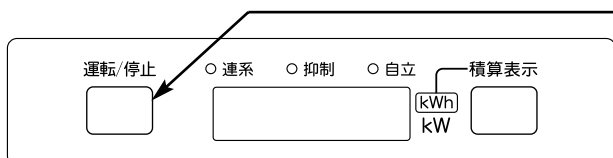
太陽光発電システム専用ブレーカをOFFにすることにより、自立運転に切り換えることができます。自立運転モードでは、自立運転専用コンセントから供給される電力により、電気製品を使用することができます。



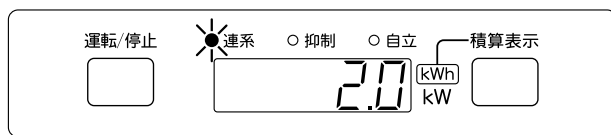
1. **運転/停止** ボタンを押し、運転を停止する  
表示が消え、パワーコンディショナは運転を停止します。
2. 家庭用分電盤の太陽光発電システム専用ブレーカをOFFにする
3. **運転/停止** ボタンを押す  
表示部の自立ランプが点灯し、連系運転モードから自立運転モードに変更されます。約10秒後に自立運転専用コンセントにAC100Vが出力されます。



## 自立運転から連系運転にするには



1. **運転/停止** ボタンを押し、運転を停止する  
表示が消え、パワーコンディショナは運転を停止します。
2. 家庭用分電盤の太陽光発電システム専用ブレーカをONにする
3. **運転/停止** ボタンを押す  
表示部がカウントダウンを開始すると同時に連系ランプが点滅し（約5分間）その後、連系ランプが点灯し運転を開始します。



### 自立運転時のご注意（点検コードは12ページ参照）

- くもりや朝夕など太陽電池モジュールの発電量が少ない場合は、使用する電気製品の消費電力によって運転できず、本体内の保護装置が働く場合があります。保護装置が数回働くと自動的に運転を再開しなくなります。くわしくは、12ページの点検コードをご覧ください。
- 15A以上の電流が流れた場合、本体内の保護装置が働く場合があります。保護装置が数回働くと自動的に運転を再開しなくなります。くわしくは、12ページの点検コードをご覧ください。
- 冷蔵庫のような、連続的に電力の供給が必要な機器には使用できません。
- 最大電力が1,500W以上になる機器には使用できません。
- タコ足配線での使用はおやめください。
- 自立運転コンセントは、最大15A以下でご利用ください。
- 自立運転していても、電気製品を使用していなければ、電力表示は0.0kWとなります。
- 太陽電池モジュールが十分に発電している時でも、洗濯機、掃除機など、モータを内蔵している電気製品は、運転開始時に大きな電流が流れるため、使用できない場合があります。
- 自立運転モードで日没となった場合、翌朝は自動的に連系運転モードが選択されます。太陽光発電システム専用ブレーカがOFFであれば「運転/停止」ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで、自立運転を開始します。

●自立運転時の点検コード（パワーコンディショナ側）の内容と処置の仕方  
（Fの点検コードのときのみ、ブザーが鳴ります。Eの点検コードではブザーは鳴りません。）

こんなときは再度ご確認ください。（これは故障ではありません）		
<div>E 88</div> <div>(E1～E14)</div>	運転中に「E88」を検出したとき	自立運転モードで、太陽電池の発電量に対して、使用する電気製品の消費電力が極端に大きくなっています。 （太陽電池モジュールの発電量以上の電力が必要な電気機器は使用できません。） 運転/停止 ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで10秒程度で運転が再開できます。
	自立運転モードで日没を迎えたとき	翌朝、運転開始は、自動的に連系運転モードが選択されています。 運転/停止 ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで10秒程度で運転が再開できます。
F 81	過電流検出 （自立運転時）	自立運転モードにて、消費電力の大きな電気製品（入力15Aを超えるもの）を使用していますか？ （運転開始時などに過大な電流が流れる電気製品も含まれます。） 正常に戻れば10秒程度で自動的に運転を再開します。
F 82	不足電圧検出 （自立運転時）	自立運転モードにて、太陽電池の発電量に対して、接続されている電気製品の消費電力のほうが大きくなっています。 （太陽電池モジュールの発電量以上の電力が必要な電気機器は使用できません。） 正常に戻れば10秒程度で自動的に運転を再開します。
F 83	過電圧検出 （自立運転時）	自立運転モードにて、接続される電気製品の種類等により発生することがあります。 頻繁に発生する場合は、対象となった電気製品の使用は避けてください。 正常に戻れば10秒程度で自動的に運転を再開します。
F 87	自立リレー接続前不足電圧検出	太陽電池モジュールの発電量が不足している可能性があります。 正常に戻れば10秒程度で自動的に運転を再開します。
F 88	自立リレー接続前過電圧検出	太陽電池モジュールの発電量が日射急変等によって不安定な可能性があります。 正常に戻れば10秒程度で自動的に運転を再開します。
F 89	「F81」を8回検出したとき	「F81」を8回検出しました。 運転/停止 ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで10秒程度で運転が再開できます。
F 90	「F82」を8回検出したとき	「F82」を8回検出しました。 運転/停止 ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで10秒程度で運転が再開できます。
F 91	「F83」を8回検出したとき	「F83」を8回検出しました。 運転/停止 ボタンを押し、「停止」→「運転」にすることで10秒程度で運転が再開できます。

（ご注意） 運転/停止 ボタンを押して「運転」にしたとき、連系ランプが点滅する場合は、太陽光発電システム専用ブレーカがONになっていると思われます。もう一度操作に間違いがないか確認してください。（10ページ参照）

●機器が発生する音について  
これは故障ではありません

キュー音	制御電源の起動音です。
ジージー音	インバーターの高周波スイッチング動作により発生する音です。
チリチリ音	
チャリチャリ音	
カチッ音	連系用リレーの動作音です。（運転開始時と、停止時に発生します。）

なお、キュー音は朝・夕の日射の少ないときや、太陽電池モジュールが降雪・落ち葉などで覆われていると、しばらくの間発生することがありますが故障ではありません。

●機器の温度上昇について  
日射が多く、パワーコンディショナが最大電力付近で運転を続けると、機器の上面など部分的に機器が温度上昇（最大70℃程度まで上昇）しますが、故障ではありません。  
ボタン部以外は不用意に手を触れないでください。感電・やけどの原因となることがあります。

●積雪時の運転について  
太陽電池モジュール上に積雪があると、太陽光がさえぎられるため発電量が減ります。積雪量がふえてくるとパワーコンディショナが停止することがありますが、故障ではありません。  
太陽電池モジュール上の積雪が減れば自動的に運転を再開します。

# 日時設定

初期電源投入時、日時設定画面が立ち上がります。

停電等で日時がリセットされた場合は「ビー」音(5回)が鳴り、いずれかの操作ボタンを押して、液晶を点灯させると日時設定画面が立ち上がります。

音は設定が完了するまで、1分おきに鳴ります。日時設定の変更は8ページから行ってください。



「」の操作ボタンで年を決めて「決定」の操作ボタンを押します。



同様の操作で月、日、時、分を決定します。



設定した日時でよろしい場合は「はい」設定した日時をやり直したい場合は「いいえ」の操作ボタンを押してください。

「いいえ」の場合 からやり直してください。



「もどる」の操作ボタンを1回押すと設定一覧画面、もう一回押すとトップ画面に戻ります。

## 知っておいていただきたいこと

- ・日付をさかのぼっての日付設定はおやめください。  
日付をさかのぼると同じ日付のデータが複数できてしまいます。
- ・日付をまたがない時間に、正しく日時を設定してください。

(ご注意)  
10分程度停電した場合、日時がリセットされることがあります。

# 現在時刻の合わせかた

取付工事時に時刻設定が完了している場合は、あらためて設定する必要はありません。  
設置後、再度時刻設定を変更する場合は、次の手順で行ってください。

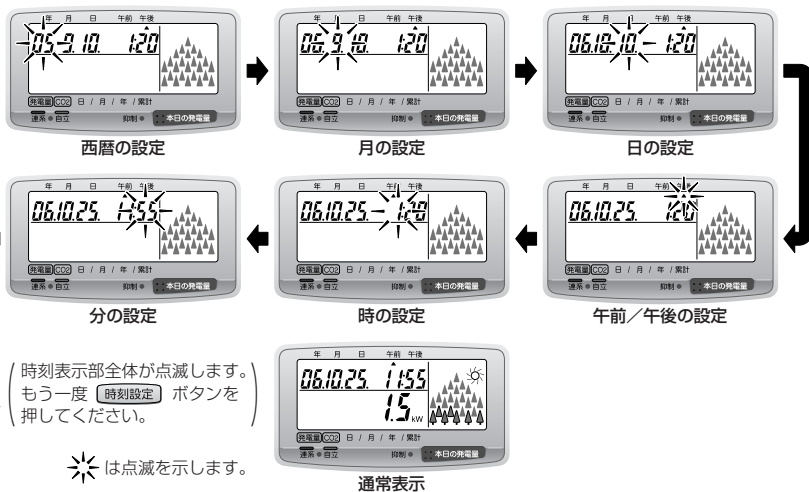
## 1. **時刻設定** ボタンを押します。

モニタユニットが通常表示中に**時刻設定** ボタンを長押し（約2秒）すると設定モードになります。

（ご注意）●一旦時刻を設定した後に再度時刻設定の変更をおこなうと、日間、月間、年間、累計積算電力量の値が正しく表示されなくなる（変更前の値とずれる）場合があります。）

## 2. 西暦・月・日・午前／午後・時・分の順で現在時刻を合わせます。

- 設定モードになると西暦の数値が点滅します。**▼もどる**、**▲すすむ** ボタンで設定したい数値に合わせた後、**時刻設定** ボタンを押すと西暦の数値が確定し、月の設定に移ります（月の数値が点滅します）。  
同様に日・午前／午後・時・分の順で設定を行います。（午前／午後は**▼もどる**、**▲すすむ** ボタンを押すと交互にきりかわります。）
- 分の設定まで終わると時刻表示部全体が点滅に変わりますので、もう1度**時刻設定** ボタンを押して、現在時刻のセットを完了してください。



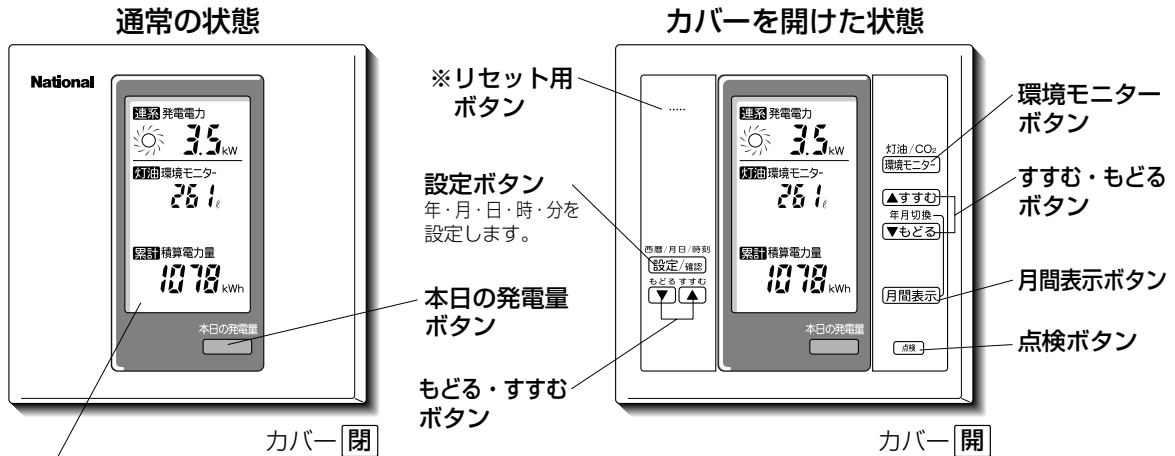
取付工事のときなどリセットボタンを押した場合

（リセットボタンを押したときに抑制ランプが一瞬点灯します。）

- 自動的に設定モードになります。  
このときの表示は、西暦・月・日・時・分が“—”で表示され、西暦の“—”が点滅します。
- ▼もどる** または、**▲すすむ** ボタンを押すと、“—”が“00”に変わりますので、上記2.にしたがって現在時刻の設定を行ってください。

# モニタユニットのご使用方法(別売品)

## 各部のなまえ



### 表示部

「本日の発電量」ボタンなどを押すと表示部にバックライトが点灯します。夜間でも見やすく便利です。バックライトは約10秒後自動的に消えます。

### データのリセット操作についてのご注意

本表示器は「点検」ボタンとリセット用ボタンを同時に押すとデータがリセットされます。カレンダー、時刻、月間積算電力量、環境モニター（灯油・CO<sub>2</sub>）、本日の発電電力量、点検コード履歴のデータがクリアされますので通常はリセット操作をしないでください。

## 現在時刻の合わせかた

### 1. 設定モードにします。

（設置直後の電源投入時、必ずリセット操作を行って下さい。「点検」ボタンと「.....」ボタンを同時に押すとリセットされます。）

通常表示中に「設定/確認」ボタンを押すと現在時刻を表示します。現在時刻を表示中（約5秒間）に「設定/確認」ボタンを押すと設定モードになります。

### 2. 西暦・月・日・時・分の順で現在時刻を合わせます。

▼もどる、▲すすむボタンで数値をあわせ「設定/確認」ボタンで設定します。

分の設定が終わると約5秒後に自動的に通常表示に変わり、現在時刻のセットが完了します。変更中の数値は点滅します。

（2004年6月12日午後1時にセットした例）

